

スクールソーシャルワーク演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「スクールソーシャルワーク(以下、SSW)演習」では「SSW論」の内容を踏まえて、個別事例へのアセスメントはもちろんのこと学校、地域及び教育行政を把握し、地域全体をアセスメントする力を培う。また、SSW実践、特にマイクロ・メゾ・マクロプラクティスについて体験的に習得する。さらに、記録の意義とスーパービジョンの重要性について学ぶ。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション : 「SSW演習」の目的、全国及び沖縄県のSSWr配置事業の現状
- ②SWの価値 : 「社会福祉士の倫理綱領」、「SSWrの活動指針」
- ③学校・地域のアセスメント : 学校、県・市町村教育委員会、教育センター、適応指導教室及び学校を支援する人材
- ④マイクロプラクティス : 支援プロセス(アセスメント、プランニング、インターベンション等)、ソーシャルワークスキル
- ⑤メゾプラクティス その1 : チームアプローチ、ケースマネジメント、校内ケース会議、拡大ケース会議
- ⑥メゾプラクティス その2 : ケース会議の展開 DVD視聴
- ⑦マクロプラクティス : 学外の社会資源の活用、市町村の子ども家庭相談体制、「連携」の意味、ソーシャルアクション
- ⑧事例から学ぶ その1 : 実践事例集より
- ⑨事例から学ぶ その2 : 実践事例集より
- ⑩記録 その1 : 記録の意義、データの蓄積、説明責任
- ⑪記録 その2 : エコマップ
- ⑫スーパービジョン・評価 : 効果測定、スーパービジョン体制の確立
- ⑬実践事例 その1 : あるSSWrの実践 DVD視聴
- ⑭実践事例 その2 : 修復的対話 DVD視聴
- ⑮実践事例 その3 : ゲストスピーカー 現役SSWrから
- ⑯まとめ

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSWに限らず、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

山野・野田・半羽編著(2012)『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

- ①山下・内田・牧野編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。
- ②門田・奥村監修(2014)：『スクールソーシャルワーカー実践事例集』中央法規。
- ③米川編著(2015)：『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房。

スクールソーシャルワーク実習指導

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

スクールソーシャルワーク(以下、SSW)実習の意義について理解する。具体的には、学校現場におけるスクールソーシャルワーカー(以下、SSWr)の必要性やケース会議、チームアプローチ、実習日誌(記録)の重要性などについて学ぶ。さらに、実習直前ということを読み、実習目標・実習計画を明確にし実習に臨めるようにする。加えて、子どもや学校、教職員から自己(SSWr)に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 学校におけるSSWrの必要性
3. ～4. ケース会議(校内・拡大ケース会議)
5. ～6. チームアプローチ
7. ～8. 記録の重要性
9. ～10. 実習目標と実習計画(個別指導含む)
11. ～12. 個人のプライバシーと守秘義務
13. ～15. スーパービジョンとその必要性
16. まとめ

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極敵に取り組むこと。また、前年度までに先輩の行ったSSW実習の実績が記載されている『実習報告書』にはきちんと目を通しておくこと。

【評価方法】

授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

山野則子ほか(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房。

【参考文献】

- ①山下・内田・牧野編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。
- ②門田・奥村監修(2014)：『スクールソーシャルワーカー実践事例集』中央法規。
- ③米川編著(2015)：『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房。